

西村閑也教授退職記念号によせて

著者	宇田川 勝
雑誌名	経営志林
巻	32
号	4
ページ	1-1
発行年	1996-01-30
URL	http://hdl.handle.net/10114/00016135

西村閑也教授退職記念号によせて

西村閑也先生は定年延長期間3年を残して、1996年3月をもって法政大学経営学部を退職されることになった。本学部スタッフ一同は御在職中の西村先生の多大な御功績に対して、感謝と敬慕の念をこめてここに記念論文集を献呈する。

西村先生は1929年3月に東京にお生まれになった。関東学院中学部、都立高等学校を経て東京大学経済学部、同大学院に進まれ、55年3月修士課程終了後ただちに法政大学経済学部助手に就任された。爾来、41年間の長きにわたって、本学の教育・研究に邁進してこられた。

この間、西村先生は経済学部商業学科の分離独立による経営学部設立に伴い、1961年4月に本学部に移られた。先生は経営学部の創設期を身をもって知る数少ない教授であり、先生は教育・研究活動の御行跡は本学部の歴史とともにあるといえる。先生は本学部では主として「金融論」「国際金融論」を担当された。また、1980年4月には経営学部長に就任され、70年代の学園紛争の余燼が残る中で、本学の秩序回復に献身的な努力を傾注された。

西村先生の御専門は「金融史」「金融論」である。研究業績は本号巻末の先生の主要著作目録が示すように、多方面にわたって膨大な成果をあげられ、しかもその多くが高い評価を得て、国内外の研究者の必読・引用文献となっている。さらに、先生は不断の研究活動と並行して、学会活動等にも御尽力され、日本学術振興会流動研究員等審査会委員、金融学会常任理事、信用理論研究学会常任理事、学術会議研究連絡委員、『金融経済研究』編集委員長、学術審議会専門委員、*Financial History Review* の editorial adviser 等の要職を歴任された。

また、西村先生は教育熱心という点でも定評があり、西村ゼミのハードな教育を経て多くの有為な人材を育成された。

私たち経営学部のスタッフは国内外の学会で御活躍されている西村先生を尊敬し、誇りにしている。そして、先生の学問研究に対する真摯な姿勢、厳しい中にも愛情溢れる学生への指導、国際人としての素養に裏付けられた発言と行動から多くのことを学ばせていただいた。

西村先生は御健康に恵まれ、気持も全く若々しくしておられ、しかも十分に余力を残して退職される。先生は1996年10月からケンブリッジ大学クレア・ホールの客員フェローとして、御研究に専念されると聞いている。先生が充実した第二の人生を送られ、「西村金融史」を集大成されることを祈念して、本号の序に代える次第である。

1996年1月

法政大学経営学部長

宇田川 勝